



# 4月の園だより

太陽の子保育園 2019年4月号

桜の花も咲き始め、太陽の子保育園の一年がスタートしました。今年度も保育目標である「丈夫な身体と豊かな心を育てる」を合い言葉に、子ども達一人ひとりに寄り添いながら保育をしていきたいと思っています。

新入園のお子さんは新しい環境でとまどいがあると思いますが、一日でも早く保育園が安心できる場所となるよう、保育者との信頼関係を築いていきたいと思っています。在園児のお子さんも「ひとつ上のクラスになった」という思いで少し頑張りすぎてしまい、疲れがでたり、不安定になったりすることがあります。そのような子ども達の気持ちをしっかりと受け止め、進級が成長につながるよう、しっかりと保育をしていきたいと思っています。そのためにも、ご家庭と保育園が連携をとっていくことが大切ですので、お子さんに変化等が見られましたら遠慮なく職員にお伝えいただければと思います。



お子たちが安心して楽しい保育園生活を送れますように、下記のことにご配慮していただきますようお願いいたします。  
◎早寝早起き、朝食をとる、排便をするなど、良い生活習慣を身につけましょう。

◎持ち物には、すべて名前をご記入ください。

◎動きやすい服装・靴にしましょう。

・ひっきりが少ない服 ・体や足のサイズに合ったもの

毎朝必ず健康観察をお願いします



子どもたちは新しい環境や緊張のため、疲れが出やすくなります。普段と様子が違う場合、登園時に声をかけてください。

- 1 睡眠……………睡眠は十分ですか？ 機嫌は良いですか？
- 2 顔色、食欲…顔色は良いですか？ ご飯はいつもと変わらないですか？
- 3 肌のようす…ブツブツが出ていませんか？
- 4 全体…だるそうにいませんか？ 下痢、便秘をいませんか？

不要になった古タオルが  
ありましたら、  
保育園までお持ち  
いただくと助かります

昨年度、古タオル寄贈をお願いした際には多くの方よりご協力いただきありがとうございます。今回また雑巾用のタオルが足りなくなってきましたのでお願いをさせていただきます。もし不要な古タオルがありましたら担任までお渡しいただくと助かります。

## 4月の予定

- 8~12 身体測定
- 10(水) 音楽指導(幼児)
- 11(木) 避難訓練
- 12(金) チューリップ畑(くま・らいおん)
- 17(水) 保育参加・懇談会(らいおん)
- 18(木) 職員研修
- 19(金) 職員会議
- 19(金) 調理保育(らいおん)
- 22(月) 職員研修
- 23(火) 体育指導(幼児)
- 23(火) 春の全園児健診
- 24(水) こいのぼり飾り
- 25(木) こどもの日・誕生日会

## 5月の予定

- 8(水) 手洗い指導(ぱんだ)
- 9(木) 音楽指導(幼児)
- 13~17 身体測定
- 13(月) 歯磨き指導(らいおん)
- 15(水) 保育参加・懇談会(くま)
- 17(金) 調理保育(くま)
- 20(月) 体育指導(幼児)
- 23(木) 歯科検診
- 24(金) 誕生日会
- 28(火) 避難訓練
- 29(水) 懇談会(ひよこ)

## 4/27(土)は親子遠足

現地集合(予定)  
昭和記念公園



詳しい内容は後日しおりを配布致します。



保育園正面の外壁欄にある畑の案内板は卒園製作で卒園児さんがつくってくれたものです。

2018年度らいおん組 保護者の皆様から LaQ(ラキュー)3セットを卒園記念品としていただきました。大事に使わせていただきます。

# 叱っても怒らない

「いい母は、いい子をつくれぬ」  
東京学芸大学教授 岩立京子著 株式会社経済界より

## 「叱る」と「ほめる」の関係

「子どもを叱るときはどうすればいいのでしょうか？」このような相談は、しつけの中でもっとも多いテーマです。どうしても叱りすぎてしまうと悩むお母さんも少なくありません。子どもを叱ることは、お母さんにとっても大きなストレスになりますし、叱ることに罪悪感を覚えるという声もよく耳にします。

では、「叱る」というのはどういうことなのか。ここで一度考えてみましょう。人によっていろいろな解釈があるかもしれませんが、私は、叱るというのは、そのことで子どもの望ましくない行動が減るか、その行動をやめるか、という効果を持つ言葉がけだと考えます。つまり、叱ってもいっこうに子どもの行動があらたまらないときには、叱っている意味がないと考えられますね。

「叱る」を有効にするには、「ほめること」がとても大事なのです。叱り過ぎていないか、また間違った叱り方をしていないか、見直してみてください。

## 怒るのは親の都合

子どもにわかってほしい、これは伝えたいというメッセージがあって、それを子どもに届けるのが「叱る」ということです。が、「怒る」というのは、不快感や失望など自分の心にわきあがったマイナスな感情をそのまま子どもにぶつけること。「叱る」と「怒る」は別なものです。子育ての場面では、ついお母さんが感情的になってしまうこともありますよね。

私にも忘れられない失敗がありました。娘が3歳の時のことです。スーパーに行ったとき、娘はあまりおしっこをためられない子だったので、「チーは？」「チーは？」と何度もトイレに誘っていました。でも、娘はそのたびに「ナイ、ナイ」というのです。何度も「ナイ」というので「大丈夫なのかな？」と思って、駐輪場へ行ったとたんに「ジャー！」とおもらしをしてしまったのです。ちょうど雨も降ってきて、おむつの替えもない状態です。思わずカツとして「さっき『ナイ』って言ったくせに！」と娘に怒鳴ってしまいました。私の剣幕に驚いたのと、おもらしをしちゃったという悲しい思いで、子どもは涙と鼻水でぐしゃぐしゃです。

そのときに、ちょうど駐輪場に居合わせた中年の女性に、「あんた何様だと思ってんだ！子どもにも人権ってもんがあるんだ！」と怒鳴られてしまいました。その一言で、私もハッと我に返りました。その女性から「あらあら大変ね」と言われれば、私も悪かったなと思えたのですが、そのときは「人のこと何も知らないで！余計なこと言わないで！」と反発心でいっぱいでした。でも、きっと私は相当に強い口調で子どもを怒鳴っていたのでしょね。

## 怒られても子どもは学べない

もうひとつ、こんなこともありました。長男が1歳後半のときですが、ごはんの前にお菓子がほしいと泣くので「ごはんのあとでね」と言うと、かんしゃくを起こし、大声で泣きながらものを投げようとしてきました。私が近づいて止めようとしたとき、私のメガネをパンと振り払ってメガネが割れてしまったのです。そ

のとき、思わず「何やってるの！」と子どもを押ししてしまったのです。子どもは倒れて、ギャーッと泣きだしました。子どもが大泣きをして、私も子どもを結果的に押し倒してしまったという罪悪感でいっぱいになったシーンが、今でも苦い思い出として残っています。

結局、子どものおもらしに私が我を忘れて怒ってしまったときも、そして子どもを押ししてしまったときも、私の思いは子どもには伝わらなかった、子どもにも「された！」という思いと「痛い！」という思いしか残らなかったと思います。いやな思いを抱いただけで、結果的に何も学べなかったのです。

言っではいけない思いながらも、子どもにきつい言葉を投げかけて「しまった！」と思うことは誰にでもあることです。ほとんどのお母さんがそのくり返しで子育てをしているのです。

子どもは、いったん寝ればいやなことはすぐに忘れませんが、お母さんのほうは「ああ、なんていやなこと言うんだろう私は……」とか「ここまでいやなこと言うかな、私？」などと、落ち込むことも少なくありません。

でも、人は失敗から学んでいくことが多くあります。やってしまったことをよくよく考えていてもはじまりません。今日はいつ感情的になってしまったけれど、次はもうちょっと冷静になろう、もっといいかわりができるかな、と気持ちを切り替えていければいいのではないのでしょうか。

## こんなしつけのチェック法もある

これは「叱っている？」「怒っている？」と自分でも迷ったときには、人前でそういうふうに見えるかな？と自分に問うてみるとよいと思います。

目くじらを立てて怒っている姿は、誰でも人には見られたくないものです。でも普通にいけないことを叱るのであれば、人前でもどこでも、子どもがいけないことをしたら「ダメ」と叱ることが出来ます。そんな形でチェックしてみるといいかもしれません。

また、最近の行動を振り返ってみて、怒っている場面が増えてきたということであれば、いつもよりストレスがたまっている状態なのかもしれません。

「いやだなあ、私。こんなふうに、子どもにぐちぐちめ言っで」とか「最近の私っていやなやつだなあ」と思うときは、子どもにも言いたいことが伝わりません。自分も、もっといやな気分になって、子育てがうまくいかないことが多いのです。

自分の中で子どもに対する感情の波があるときは、ストレスがたまって疲れているサインです。家事を手抜きして、ちょっと休んだり、子どもを預けて買い物や美容院に行くといった気晴らしをしてみるのもいいのではと思います。

